

二月の手技材料

目白幼稚園 和田 實

例の通り、二月中旬から三月中旬迄の手技材料に就いて考へて見ませう。

雑遊び。三月三日のおひな様遊びは我國古來の風習から云つても、又、幼児教育上の家庭問題から云つても、捨てることの出来ない年中行事の一つでせう。今月の幼稚園作業として、先づ是を選ぶのは當然のこととせう。夫れで、おひな遊びを如何に組織するかと云ふことが、最初の問題です。是に就いては色々の案があるでせうが、最も普通に行はる可き様式としては、先づ、幼児をして、おひな様の一揃を作らせ、次に、適宜なお道具も

作らせ、斯くて一組のおひな様を各自に完成させ、之を當日、適當に壇上に飾つて、鑑賞すると共に、其前で、お話やら、唱歌遊戯やら、面白き遊びして、雑に供養することを以て、幼児自らをも樂ませることとあります。尙當日、其樂を扶ける爲めに、菓子種で、煎々いぢいを作つて幼児に與へることも、悪くはないでせう。變つた考案としては、大きさ七八寸位(直径)の壁掛を作り、之に紙雑を押し繪して見るのも面白いでせう。其方法は、先づボール紙(十オンス位)を直径七八寸位に圓く切り之に白い紙を帖る。(白い紙を帖る代りに白

ポル紙を最初から使つても宜しい。次に、おひな様の顔は圖畫紙を適當に剪りて、適當の位置に帖る。顔は子供には書けないでせうから、先生が適宜書いて遣る。次に、着物は千代紙があれば夫れを使つて切らせ、中に綿を入れて台紙の上に帖らせる。此細工が一寸困難でせうが保育の終る頃の子供としては二三度先生の模範を見れば出来る筈です。成る可く簡易な形を工夫して置いて、子供の見て居る所で、一二度行つて見せて、

眞似させる可きでせう。背景には桃の花を帖紙で帖り、桃の枝は色紙を紙く切つて適當な形にして帖るか、或はクレオンで書けば宜しいでせう。おひな様の雄雛の冠は金色の紙を適宜切つて帖れば宜しい。是れで大體出来ましたが、尙台紙の周圍は金色が銀色の紙でふち取りをして、夫れが上方に適宜に紐カリボンで「提げ」を作つて、是れで仕上りです。雛まつりの時は之をおひな様と一所

に飾つて遊び、歸りに持たせて歸すと、家庭では適當の所に暫くは柱飾か壁飾として母様の部屋を飾ることとせう。之も面白い案だと思ひます。由來、押繪と云ふものは婦人の手藝として、昔は能く行はれたもので、現在も、羽子板には随分精巧なものもある位で、中々興味の多い手技であります。其の簡簡なものは、幼兒にも出来ますから眞似させることもよいと思ひます。

今一つ、變つて考案としては、雛遊びの當日、おひな様の全部の人形に子供を使つてすることに於て、其衣装やお道具の全部を紙其他のもので間に合せて、おひな様になる子供、官女になる子供、左右大臣、使丁の様なものも全部子供に遣らせ、其前で、お内裏様の爲めに皆んなが色々の事をしてお見せする。最後には内裏様も何かして、皆んなに見せると云ふ様な仕組みにして、之を當日は子供の家庭の人を招待して見せることです。

是れは、少し大仰で、そして手技の部分は其準備をすることの間にあるばかりですが、併し、手技としては變つた仕事があつて面白いと思ひます。内裏様の冠、左右大臣の冠や弓矢、官女の使ふ道具、仕丁の必需品等夫々に用意が必要でせう。其他、御殿になる舞台の裝飾等も色々用意が要るでせう。是等の準備は手先の細かな今迄の手技と大部趣きは違ひますが、又夫れだけに面白味も違つた趣があつて、却つて、好い結果があらうと云ふものです。殊に男の子には斯うした大袈裟な仕事が入つて今迄と違つた意氣込を見せることでせう。當日の前の日に煎々を作ることになれば、そして、之を子供の仕事に出来るならば又一層、面白い仕事となります。原料の煎種の必要量と之に相當する砂糖、醬油を適宜の器物に入れ、汲み出す適宜の道具と共に用意し、別に七輪二個大鍋二個を用意する。そして、先づ七輪に火を起し、大

鍋の片方に煎種の若干を入れて火に掛け、今一つの鍋には砂糖と醬油とを適當に入れて火に掛け、砂糖が適當に煮えた頃、煎種の適當に煎り上つた頃に、煎種を砂糖の鍋に移して煎り上げる。煎り上つた煎々には別に大きな器物に移して置き、又前と同様な方法を繰返して煎々を作る。先生は傍に立つて指揮と監督とを適當にすれば仕事は相當に進んで行きます。火加減と味と煎加減とに注意して遣れば他は子供に皆出来る仕事です。火を遣ひ、砂糖を煮ると云ふことで、子供には危険ではないかと云ふ心配もありませうが、道具立てが適當なれば、そして、手順が都合よく行く様に整へてあれば少しも危険はありません。勿論、先生の監督と道具の適當と云ふことは、何よりも大事なことです。鍋がひつくり返り易かつたり、かき回すはす道具や、汲み込む道具が不適當であつたりしては砂糖がこぼれたり、醬油がたれたり、果ては、

煮立つた蜜で子供が火傷しないとも限りませんが、是は道具の適當と監督、指揮の宜しきとで、充分に補はれるものです。以上の注意が適當に拂はれるならば料理の必要と面白味とを経験させる遊びとしては適當なものと思ひます。更に、當日此煎々を會衆に頒つのに、袋なり、箱なりを幼兒に作らせるならば、茲にも一つ、適當な仕事が見付かるでせう。斯くて、雛遊びは頗る愉快な遊びとなるでせう。

雛遊びが濟むと次に來るものは幼稚園の卒業製作です。幼稚園の仕事を記念する爲めに、何かまとめて置くことは好いこととせう。尤も、然様の意味でなく、單に幼稚園の卒業式の當日、陳列して父兄に見せる爲めにのみ作るとしても宜しいでせう。茲では、寧ろ後者の意味で書いて見ませう。卒業式當日の陳列品としては圖畫、折り紙、厚紙細工、粘土細工等が普通ですが、個人製作の

外に一組のもの、合作も面白いと思ひます。

圖畫、圖畫は自由畫と寫生畫とを半々位に出したいと思ひます。何れも材料を豊富に提供して、自由な製作を充分に行らせて其中の良成績物を二三點づゝ、まとめて大きい紙に貼り付けるか一冊の綴つたものにして置くがよいと思ひます。合作の方法は色々あるでせうが、例へば、動物園の背景を先生が大きく書かれたら、之に各幼兒の書いた動物を切り抜いて帖るがよいと思ひます。そして、台紙の一方の端に各幼兒の製作品名と氏名とを表示して置くがよいでせう。大きい台紙へ直接書かすことは出來、不出來があつて取換が出來ませんから、都合が悪いと思ひます。或は大きい景色の内の空色と地面とを先生が書いたとすれば木や家や人や犬や山や、橋などを子供に書かせ之を切り抜いて帖り付ければよいでせう。

折り紙 折り紙は子供の出來る丈を作らせて、

之を全部銘々の箱入として陳列するのも面白いと思ひます。子供に因つて澤山出来るもの、少しきり出来ないものなどもあるでせうが構ひますまい。そして、是には合作の必要がないでせう。次には

厚紙細工。是は色々面白いものが澤山出来ますから、數種の細工を行つて見て、出来る面白と思ふものを探つて、陳列品としても宜しいと思ひます。合作としては、例へば町と云ふ題で、菓子折の古いのを利用してもし或は新に造るとしても何れでもよいのですが、兎に角、色々な家と店と役所と學校と云ふ様なものを作らせ、之を先生の指導の下に一つの町を机上に模造しても面白いと思ひます。次には

粘土細工。數種の製作を行らせれば自然適當な陳列品を求めらるでせうから別に書く程のことはあるまい。尤も製作の種類が一定するよりは各自

の自由に任かして色々のもが出る程、見る人の面白味は多いでせう。

以上の外、豆細工、縫取等も出来ますが然る可く取捨して時間の餘裕次第にするが宜しいでせう。是で卒業製作は終りましたが、卒業迄の中に一二度は是非、行^やらせて見たいと思ふことは水繪の具の使ひ方です。クレオンで色塗りすることは能く慣れて居ますが本當の繪の具は又變つた面白味があるので、一度は經驗させて遣りたい様に思ひます。夫れには此時期を描いて、他に適當な時がありません。が併し、随分、手數も掛り、机や床を汚^{よご}す様なこともあるでせうし、又衣服などを汚^{よご}さぬとも限らぬので、一寸面倒ですが、準備を能くすれば随分出來ると思ひます。其方法としては先づ机上を新聞紙の類で充分に被^{おほ}覆して置き、其上に四人（差向に坐した）に一組づゝ繪の具を皿に盛り與へる。繪の具は赤、緑、空色と

黄とで宜しいと思ひます。それから子供には輪廓とつた塗繪の紙を興へて一度模範を示して子供に行らせるのです。子供の悦んで行^やることは請合ですが、繪の具を垂らしたり零^{こぼ}したりしない様に注意することです。又塗り方に就いて色々注意しなければならぬことはありますが是は繪に應じて其時々々に注意す可きて「一般に豫め」と云ふ譯には行きませぬまい。兎に角、斯様にして二三度實行するとクレオン以上に繪の興味も發展する様に思ひます。此際使ふ筆は水採畫用のもので、巾三分位の小さいもので宜しいと思ひます。日本の普通の毛筆は使用が六ヶ敷くて、幼兒用に向かない様に思ひます。

○保育實習科新卒業生

今年も亦二十四名の新しい保姆が、此三月を以て、お茶の水の保育實習科から巢立たうとしてゐます。一ヶ年といへば短いようですが、實習本位の教育方針のもとに、入學以來、幼稚園で受けた鍛鍊は、並々の學校生活とは、全然違つた修行であつたに相違ありません。「理論や熟達は容易のことでないが、幼兒の爲めに骨惜しみしないことと、園の爲めにまめ／＼しく働く癖だけは、是非修行して置いて貰らひたい」とは、主任の倉橋先生が、始終若い人達へ言つてゐられる言葉です。其のいゝ修行を早く實際に役立てられるよう、保育界の爲め、皆さんの爲め、切望にたえません。

(みどり子)